

美濃加茂市新庁舎整備基本構想について
(答申)

平成30年1月9日

美濃加茂市新庁舎整備基本構想策定委員会

答 申

美濃加茂市新庁舎整備基本構想策定委員会は、平成29年2月7日付けで美濃加茂市長から諮問のありました美濃加茂市新庁舎整備基本構想策定における次の事項について、以下のとおり答申します。

なお、「答申書付属参考資料」を併せて参照してください。

諮問事項 美濃加茂市新庁舎整備基本構想について

1. 現庁舎の課題整理について
2. 新庁舎に求められる基本機能について
3. 新庁舎整備の事業手法及び候補地等の比較分析について
4. 新庁舎をいかしたまちづくり構想について

はじめに

美濃加茂市新庁舎整備基本構想策定委員会（以下「当委員会」）では、諮問を受け、全6回の委員会を開催しました。その間、美濃加茂市では、様々な年代や性別、国籍の市民の意向を十分に反映することを目的に、全4回の市民ワークショップと全6回のおでかけワークショップ^(※1)が開催されました。さらに、市民アンケート(1500名の市民に郵送・有効回収率31.8%)、来庁者アンケート(100名)、職員アンケート(485名)及び現庁舎の職場環境調査、他都市の事例等関連資料の収集なども行われました。当委員会では、これらの分析結果等の報告を受け、諮問事項について慎重かつ丁寧に検討を行いました。

諮問事項の検討と併せて、答申の過程を広く市民に知っていただくために、当委員会の会議の結果を「かわらばん」として公共施設に掲示するとともに美濃加茂市ホームページに掲載しました。また、市においても「広報みのかも」上で新庁舎整備に関する特集が生まれ、当委員会の活動等が毎号コラムとして掲載されるなど市民に対する情報発信が積極的に行われました。

以上のように、答申に至る過程における透明性を確保した上で検討を重ねた結果、当委員会として次のとおり本答申を行うものです。

(※1) 子育て世代、自治会代表者等、働く世代、中高生、外国人、障がい者を対象に実施

1. 現庁舎の課題整理（付属参考資料 P4～P15）

現庁舎の本館は、築後56年経過し、修繕費及び維持管理費が増大するとともに、利用者にとっても使い勝手に不便をきたしているのが現状です。

現庁舎の課題は、大きく分けて「老朽化・耐震脆弱性」、「狭あい性」、「防災機能の不足」、「親しみやすい空間の不足」、「まちとの関連性の不足」の5項目に整理することができます。当委員会は、これらの課題を解決するため、現状のまま使い続けることを見直し、新庁舎整備の検討を進めるよう求めます。

2. 新庁舎に求められる基本機能（付属参考資料 P16～P26）

当委員会は、新庁舎が備えるべき基本機能として、①「市民サービス機能」、②「執務機能」及び③「市民とのつながりやまちとのつながりに対応した拡張機能」が求められると考えます。そして、これらを具体的に検討する際には、ユニバーサルデザインや省エネルギー化、情報化社会への対応といった技術的な配慮だけではなく、より人間的な配慮もきわめて重要です。

《基本機能から導き出された新庁舎整備の基本理念及び基本方針について》

当委員会では、市民と共にまちづくりを行う拠点（ひろば）となれる庁舎を意味する、「みんなの まあるい まちづくりひろば」が新庁舎整備の基本理念としてふさわしいと考えます。

さらに、現庁舎の課題を踏まえた上で、基本理念を実現するために必要となる次の5つの新庁舎の姿を、新庁舎整備の基本方針として提案します。

- i) まちが元気になる庁舎
- ii) 安全で安心な庁舎
- iii) すべての人にやさしい庁舎
- iv) 市民が集う開かれた庁舎
- v) 持続可能な庁舎

当委員会は、この基本方針を柱として、「庁舎機能の改善」、「社会的要請への対応」、「まちづくり」の3つの視点で新庁舎のあり方を十分に検討した上で、ハード面だけではなく、運用面、デザイン面、コスト面においても理想の庁舎を実現させる手段を選択することにより、「みんなの まあるい まちづくりひろば」の実現を求めます。

3 - 1. 新庁舎整備の事業手法の比較分析（付属参考資料 P27、P28）

当委員会は、現在の美濃加茂市の厳しい財政状況を踏まえ、新庁舎整備の事業手法について、従来型とよばれる市有地に市有の建物を整備して使用方法だけではなく、PFI手法や、民間施設のリース（賃貸、間借り）など十分な検討

が必要です。

新庁舎整備の位置や配置が決定していないため、当委員会において最適な事業手法を判断することは困難ですが、今後、費用と資金調達の可能性、空間資源の有効活用、まちの活性化効果、公共性などを十分に考慮して判断すべきと考えます。

3 - 2. 新庁舎整備の候補地等の比較分析（付属参考資料P29～P32）

当委員会は、新庁舎整備の候補地について、利便性が高く、広さや周辺環境が適切であり、かつ防災上問題がないことに加え、新庁舎が美濃加茂市のまちづくりに活かされることを重要な視点と捉え、市民ワークショップの成果報告を踏まえて検討・議論しました。その結果、次の4つのエリアを候補地として選定しました。これらは、いずれもコンパクトエリア^(※2)に含まれています。

- ①現庁舎周辺
- ②美濃太田駅周辺
- ③美濃太田駅北側スーパー周辺
- ④前平公園周辺

これらの候補地が持っている立地上の強みと弱みを分析した結果、当委員会は、新庁舎に求める立地条件として、次の6つの条件を提案します。

- i) 誰もが利用しやすく立ち寄りやすい場所であること。
- ii) 駐車場を含め、庁舎として十分な広さが確保できること。
- iii) 生活の利便性が高いエリアにあること。
- iv) 土地の取得を含めコストが抑えられていること。
- v) 自然環境や景観などが整っていること。
- vi) 治安がよく、防災面においても安全で安心であること。

新庁舎の位置や配置は、上記立地条件に加え実現可能性などを踏まえて、より詳細で具体的な検討が必要です。

(※2)コンパクトエリア：「美濃加茂市公共施設等総合管理計画」において定めた庁舎等、主要な公共施設が集約されている地域

4. 新庁舎をいかしたまちづくり構想（付属参考資料 P33～P39）

当委員会は、理想とする未来の美濃加茂のすがたを「2050年になってもみんなが幸せを感じることができる庁舎のある未来」と考え、この未来の実現のために必要な新庁舎の役割について、市民が30年後も大切にしたいキーワードを「未来に届けたいタネ（まちづくりの資源や可能性）」と名づけて話し合い、その結果、下記のような意見が出されました。これらは、市民にもわかりやすいように、別紙付属参考資料のとおりイラストにして表現しました。

- ・災害にとっても強い
- ・みんなが使いやすい
- ・市民が一日過ごせる／ほっとできる
- ・自由に使えるスペースがある
- ・ビジネス交流ができる
- ・将来の変化に対応できる
- ・情報発信基地となれる
- ・楽しい広場となれる
- ・まちの中に人の流れができる

このような意見を踏まえつつ、4つの候補地における新庁舎をいかしたまちづくりの可能性を検討した結果、新庁舎をいかしたまちづくりには次の4つの視点が重要と考えます。

- ①生活と商業を結びつけ、人の流れを生むにぎわいを創出すること。
- ②地域の活動やコミュニティをいかし、国籍などに関わらず人と人とのつながりを築くこと。
- ③美濃加茂の歴史や伝統を継承すること。
- ④既存の地域資源をいかすこと。

当委員会では、以上のことを踏まえ、『ヒト・モノ・コトの行き交うなかで培われてきた「土壌・風土」とそこで育まれた美濃加茂人のDNAである「迎え入れる心」を、新庁舎を拠点としたまちづくりにいかしつつ、再構築すること』を「現代版 太田宿」と名付け、新庁舎をいかしたまちづくり構想の理念とすることを提案します。

おわりに

本答申は、市民の意向を十分に反映できるように、市民ワークショップや市民アンケートなどを実施し、丁寧に検討してきた結果ではありますが、新庁舎の位置や配置、事業手法の決定など具体的な検討はこれからです。

美濃加茂市においては、新庁舎整備基本計画を策定する際に、市民の意見に対し十分に耳を傾け、市民参画を積極的に図ることが必要です。その上で、専門的な知識を取り入れ、より慎重かつ丁寧に検討していく必要があります。

最後に、当委員会として、「みんなのまあるいまちづくりひろば」と「現代版太田宿」という二つの理念に基づき、まちづくりの拠点となる新庁舎を整備することにより、「2050年になってもみんなが幸せを感じることができる庁舎のある未来」が実現できることを心から望みます。